

宮津市庁舎基本構想等検討委員会からの答申について（報告）

宮津市庁舎基本構想等検討委員会（委員長：青山公三京都府立大学名誉教授）から、宮津市庁舎の整備に向けた基本構想（基本的コンセプト、整備プラン等）について答申を受けたので、報告します。

1. 宮津市庁舎基本構想等検討委員会について

（1）委員の構成

学識経験者	青山 公三	京都府立大学名誉教授（都市計画・危機管理）	委員長
	杉岡 秀紀	福知山公立大学准教授（公共政策・地方自治論）	
	大門 大朗	福知山公立大学准教授（社会心理学・地域防災論）	
住民代表	岡田 栄三	宮津市自治連合協議会会長	職務代理
	黒岡 芳子	宮津市地域女性の会会長	
	北尾 ひとみ	宮津市民生児童委員協議会監事	
関係機関	山口 孝幸	宮津商工会議所専務理事	
	笠井 裕代	（社）北星会特別養護老人ホーム天橋の郷施設長	
	井上 真哉	京都府建築士会宮津支部常任幹事	

（2）検討経過

【7/16】第1回委員会：設置、諮問、庁舎の基本的事項、整備手法シミュレーション

【11/20】第2回委員会：基本的コンセプト、整備プラン、市民意向の把握

【12/20-1/19】宮津市庁舎整備に向けての市民アンケートの実施

基本的コンセプト、整備プランについて市民意向を把握

【3/6】第3回委員会：基本的コンセプト、整備プラン、その他、答申内容のまとめ

【3/21】答申

（3）答申の内容

別添：答申書のとおり

庁舎のあり方 HP

* 委員会経過ほか

詳細資料



<参考>昨年度までの取組み

R2.9 公共施設再編方針策定

本庁舎は耐震安全性を満たしておらず老朽化著しいことから具体の対応方針を早期に策定

R2-R3 庁舎のあり方検討部会（庁内検討グループ）を設置

現有庁舎の状況、基本的事項、財源のありよう、整備手法選択肢などを論点整理

R4.6 市役所庁舎あり方検討に関する市民アンケート調査を実施

本庁舎の場所、分散・集約、役割や機能、意匠について市民意向を把握

R4.7-9 未来の庁舎を考える市民会議を設置

将来、庁舎を利用することとなる若い世代からアイデアや意見を聴取

令和6年3月21日

宮津市長 城崎 雅文 様

宮津市庁舎基本構想等検討委員会
委員長 青山 公三

宮津市庁舎の整備に向けた基本構想について（答申）

令和5年7月16日付け宮総第138号で諮問を受けました標記の件につきまして、下記のとおり答申します。

記

1 整備にあたっての基本的コンセプト

新たに市庁舎を整備するにあたり、目指すべき基本的コンセプトは次の4点とする。

基本的コンセプト1 利用しやすく親しみのある庁舎

市民にとって親しみが持て、誰もが気軽に集える交流の機能を有する庁舎とする。

基本的コンセプト2 災害にも強く、安全・安心を確保する庁舎

強固な防災性を備えるとともに、万が一の大災害時、非常時、緊急時において、災害対策拠点として必要な防災機能を備え、市民の安全・安心に資する庁舎とする。

基本的コンセプト3 シンプルで経済的な庁舎

過度な装飾は排除し使いやすさを重視するとともに、将来の財政負担が過大とならないよう、初期投資も維持管理も低コストな庁舎とする。

基本的コンセプト4 機能的な庁舎

市民の利便性向上を図るため、分散している行政機能を1か所に集約し機能性を高めるとともに、設備のバリアフリー化はもとより、国際標準であるユニバーサルデザインを導入し、ダイバーシティにも配慮した来庁者にやさしく、職員が働きやすい庁舎とする。

2 立地場所及び整備手法の方向性

- ・市庁舎は、利用する市民の利便性を考慮し、中心市街地に配置し集約することが望ましい。
- ・整備にあたっては、財政状況が厳しい中であって、国・府からの財政支援がないことから、可能な限り経費を抑えられるよう、経済合理性を考慮し、既存の建物活用が最も適切な整備手法であるとする。
- ・土砂災害、地震・津波・浸水被害に対して、ミップルビルは立地面や建物強度面から、一定の防災性が確保できる。
- ・現在の福祉・教育総合プラザは、アクセス性と商業施設との同居により、市民から高い評価を得ている。

こうしたことを踏まえ、市庁舎を『ミップルビル（宮津阪急ビル）』内に移転し、行政機能を集約することが望ましい。

この実現に向けて、建物所有者や建物賃借者と丁寧に協議を行われたい。

3 その他

昨今の技術進歩により、様々な面において利便性が急速に拡大している一方で、人と人との関係性の希薄化が大きな課題となっている。

これからの市庁舎は、このような時代背景を受け入れつつも人と人とのつながりを深め醸成する場としての機能が求められる。高齢者や障がい者、外国人や学生など、あらゆる世代が親しみやすい市庁舎の実現に加え、窓口対応や各種行政手続きについてはDX（デジタルトランスフォーメーション）の進展によって、市民サービスがさらに向上していくこと、とりわけ庁舎から離れた地域への行政アクセスについても向上することを切に期待する。

また、次の課題について、併せて検討されるよう申し添える。

- ①現在の市庁舎本館は、歴史的価値があるとされていることから、別途、検討組織等を設置し、そのあり方について議論を深められたい。
- ②島崎・浜町エリアについては、今後の宮津市の発展に向けた重要拠点にしていかなければならないことから、市庁舎の移転を契機に、新庁舎を含むエリアを一体的かつ総合的見地から宮津市の新たなにぎわいを創出するための再開発に向けた議論を深められたい。
- ③市庁舎の移転に伴いミップルビルの売り場面積が減ることとなることから、買い物利便性が大きく損なわれることのないよう周辺エリアでの対応も含めて十分に配慮されたい。
- ④海が見える庁舎という優位性を活かし、市民のみならず国内外各地や海外の人々が交流できる機能、市を象徴する機能を検討されたい。

以上

ミップルビル集約プランのイメージ

ア 集約型 ミップルビル集約プラン・市純負担額 39億02百万円(20年間)

ミップルビルの庁舎は継続した上で、さらにミップルビルに、現在の本館、別館のすべての部署を移転するプラン

●庁舎イメージ

<ミップルビル>

5F	飲食店舗等(民間貸付)
4F	庁舎、(管理部門等)、にっこりあ、コミュニティルーム
3F	図書館、コミュニティルーム
2F	庁舎(窓口、議会、防災拠点、玄関等)、事務所等(民間貸付)
1F	食料店舗等(民間貸付)

- ・2階を新たに庁舎部分として市民の利用が多い部署を配置
- ・3階は図書館、コミュニティルームなど現状どおり
- ・4階は管理部門、にっこりあなどを配置

●整備イメージ

- ・ミップルビルを宮津市が取得
- ・1階と5階、2階の一部を民間に貸付け使用料収入を得る

宮津市庁舎整備に向けての市民アンケートから転載

市民アンケート結果

Q2 市庁舎整備プランについて

基本的な市庁舎整備プランの候補として、集約型、建物活用品、新築型の3プランについて尋ねたところ、「集約型(ミップルビル集約プラン)」(51.04%)、「建物活用品(みやづ歴史の館リノベーションプラン)」(23.92%)、「新築型(島崎エリア本館新築プラン)」(13.80%)、「その他」(11.24%)の順となった。(図-13)

市庁舎整備プランについて

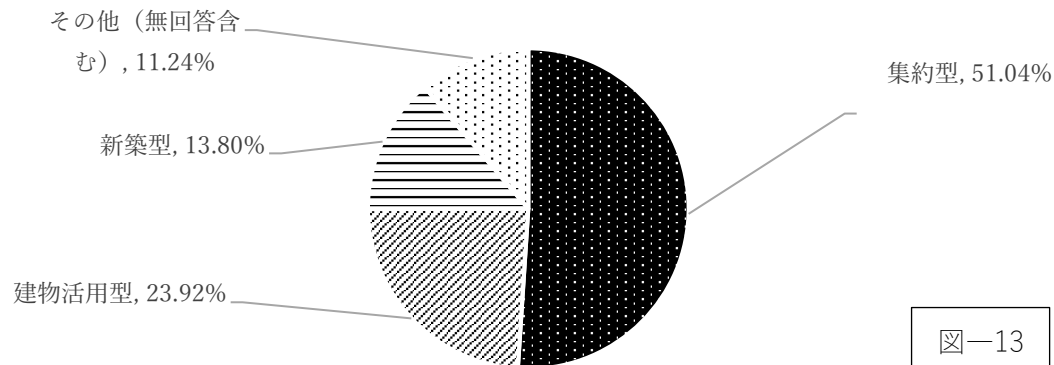


図-13

宮津市庁舎整備に向けての市民アンケート調査報告書から抜粋

ミップルビル集約プランの経費シュミレーション

項目	種別	①ミップルビル集約プラン	
		公共実施	
初度経費	新庁舎	整備 or 建築	930
		不動産購入	1,000
	備品	87	
	引越	19	
	設計・工事監理	93	
	初度経費小計		2,129
20年間経費	中長期改修	1,017	
	運用(維持管理)	2,626	
	20年間経費小計	3,643	
支出合計		5,772	
20年間収入合計(賃料、改修費負担金等)		1,870	
20年間市純負担(支出-収入)		3,902	

第2回検討委員会資料から抜粋